207
827

扇の面土

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

天道は盛衰を以て幾たびか改り盛なるや。四姓の中、藤原氏は大職冠鎌足公に始まり代々帝の補佐たり。橘氏は左大臣諸兄公に始めて橘氏を賜りし名族、菅家は輔弼の家也。源平両家は武門の棟梁として代々朝家の守護たり。就中源家は人皇五十六代清和天皇第六の皇子貞純親王の御子六孫王経基公始めて源の姓を賜り、満仲・頼光・頼信・其子頼義・義家と相続で武家の首魁たり。中にも義家の武勇は天下に勝れ、後三年の軍功あり、鎮守府将軍と仰がれ、是又関東の武士の棟梁たり。平氏は人皇五十代桓武天皇の皇子葛原親王の孫高望王初めて平姓を賜りしより、源家と並びて武門の首たり。両雄並びて朝家を守護すといへども、源家の後胤為義・義朝、保元の乱に義朝父を討ち、平治の乱に義朝待賢門の戦に敗れて、平家の一門天が下を掌に握るといへども、天罰来りて源の義朝の子伊豆の国より義兵を揚げ、一門ことごとく世を去り、四海一統に治りたる頃、曽我兄弟富士の裾野に親の敵を討ちし其名を知らぬ者なけれども、その義烈を彫刻して又夜雨の闇を補ふものなり

文政十一戊子年孟春

五柳亭徳升撰

市川團十良挍

五柳亭徳升作

歌川豊國画圖

上編二冊

扇冨士曽我物語

文政十一子年孟春新刊

横山町二丁目

岩戸屋喜三郎

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

○伊藤九郎祐清

一色哉作菊の花盛り

○發端工夫武者我てうぬくのてゆ

人多き時ハ天にまぐれ天定まりて人せんす猛勢侫兵ある者人の名を抱ふて一旦のみ
ざしを仰ふに仰されども法のに正理にかゝるゆあさいずあふに伊豆の国の仰人伊豆次帝祐
近が孫勇我の十帝祐成男五帝時宗家士のすそ恐ふ勢のよく強倉どの 四陣吾にをも
たゞからず抱やのかゝ見工夫ある祐経を討ち名成後代にさぶりなる由来を人口く尋ねに
伊豆の国伊豆河津宇佐見の三家を合せて久津の庄と名づく能主ハ工夫太夫祐孝法師
はして久津兵入ゑ志ずくあとのゝ者男子あまたあるとのゝども皆若くして世をさりなる家さく
すでにたんとすへ入ゑ志ま主をあげきまゝ娘の子我とりて世く子と定め伊豆をゆづり工どう
武者すけつぐと名のらせ又世くそんあり次男として河津をゆづり次帝祐近といふ志るゆ
久津兵の入ゑせんきよのち次帝祐近法くぐと抱ふ世ハ家の子あれば世にし
あるべきとまゝ娘の子祐つぐ家とて相ぞくあすあとなすらねと明きるそれのこ思ひなる
志ま主を家をはしあふはしまりて家と他人ありとも父母子してゆづるべハ己が実の兄より当
志といへども次帝祐近あるゆと称工どう武者祐つぐをはしあるゆんと同く斗をといへども我
ちからあれ抱よびぶくゝ也はしく四月を抱りなるある時祐近笞稲の別当を以ちうふ
よびくゞしていろくとはしは渦名ん抱ろてゆゑるゆゑてよりあるしめすごく工夫河津の
家とてあらそひこれ世そんにあるあるゆゑら伊東の本領を工夫に抱ふ且うされしと称
に抱く抱ゑ仰志ま主にあつてかまをはしあるゆんとぞんずれど兄の義なれバせんかたあらず
傍志ゑうぶんの法をもつて工夫武者祐つぐをてうぬくしてあるゆまとゆゑれバ別当ハ志べ
らくものをもいるまずいたけぶ世ありてゆゑ能かく愛すへ一後一生にてあそあぶ孫とも

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

陶朱公天授秘法懐中御守薬
一ト包代弐百三十三銅
富貴自在運利香
東都 細川起規精製
賣弘所 江戸横山町二丁目 岩戸屋喜三郎

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827
ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

市川團十良校

立柳亭徳升作

歌川豊國画圖

中編二冊

安婦美冨士

戊子春新刻

岩戸屋板

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

つぎ かくて日ふも松のひびろくどうあふこ
ゆるさ七日ゞあのごとく日夜こゝもくつきこゝひ
まのあるふまゝゞりりめくろくる

○河津の三郎祐くろの
さんばけうくり豆をねらひてみくと
あくろをもうてさもおそ立ち矢先のは
まぶの山のふのとうなさみのさうひこ
あゞりびうあまをたゞひそ
あのの木三郎祐くろう
一のまゝゞあいあゝうの
あゝうさのそうとさなの
今やあをとまうちゞけ
くろれたざ祐ゞくまの
せゞうこそゞんいものひの
そうこそゞんいものひの
源八四ゞんいさのゝふ
ゞゞんいろうさがつてさひゝうのすと通ら
覚ちおゝあ祐ゞのそう我ゞのひさまふ
まゞらのひうおゞすそ
たゝのふまをもおこ
せそんどうの弓のまん
中をとうひきくらうけ
くる作公をとがうくれ

さいけはまのふおあ祐のつそ祐ま
あくまのきらいあくまゞくと
あゝこそのとうさ
のそうのとう
とうさうゞね
男まのふをそ
十おんおゝうあゝて
大のひゞうえさゝ
つゞひうぬきこ
ゞうとまのう
えさゝひいあや
まこすうう
ゞきこうあを
めりのうこうゞんゞふくう
の祐ちげるみまうきう
さうふおおうふ修とうふこれをうるも
あうふ修とうふこれをうるも
おらまぎこうふるあうの村あゞれ
ふうこゝらすこゝのこゝきのたゝ
ま祐谷くのぬまゞとあをこゝり
くるあうくらあをこのいとそこ一の
まゞとゆらひをすおゝこのう
えさおえゝやまうて修とうゆくを
ゆそんゞたうふうくらこのえさと
つゞんとするおをまんいうもきくゝゆ

さらふおあ後ゆおうす
ゞきれゝとうくうゝ
るこゞをあゞしあへさ祐
あるせゞれをいこうせゝ
さそ

祐つそ
大きふ
もとゞ
ろきく
まうな
ゆゝや
よゞと
ゞ

さゝ祐ゞ

三へ叶ふゞ
祐のひんの
ふうのゝの
あゞこえふ
修とうゆくん
ふうのゝの
あうきふ
うきふうし
とうふ祐のの
ふうゞあうさゝ

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

つゞき さのゝかはづはさしく父にかはり
それよりこそまさしく父にかはり
ぶぞのときそ河津ハ
はるゝうちにしくゆとて
父がゆすうりなり
にまうしあくぶざをきく
ほまれをあんぢ
なこれをぬがれず
やとこしまでこそ
一弟なりこそおあれ
とかせんとておなかさ
見ゆとそ事しくおもへゆと
いひおかしてなにおさき
ふさうの
せがれをと
たのみたて
まうさあり
とそ
あて
あく
ろえの
のつゆと
きうふなりむぎんなりなる
あきなもうへてまで
とそ死ぞをとうてそ家
なりあびがむかをぼめ
河のみせきこらふあるの

ぜんこそうさゝなくないなるり
ろうのこふ祐しけが男子
一天あり兄を一まんとそことじ
そくまあり身をとらうハ
三文まであり
あすう母ひ
のあわれ
一人の子を
九右のひきの
らふかのせ
かゝりき
あで
や
それのうちの子ハ
母のいゝのときゝてまると
いはしてなんぢら
ふさうハ五ツやニツなるぞし
十五才なれぼおやのかたきを
うてハ父のたがけよと
おきのなりこゝろ身
そこうれぎ、ならざして
兄ぶつきとしてあそいなる
兄の一まん卯しらるが
うれをうくとまゝりて
ひろとあれ出しその名り
いうなとほとして父の ▲

なんゆう
とかぶり
ひろめ
せんぎの薬
くんきうえ
そこ星の
まり
たんの
まり

▲ さきのくび
とてくそへ
見せまゐらせ
せんといひ
名代ぶれよく
神をぬらし
なりあきを
からをのぞ
かくしあく
夕々のけぶり
おはなみる

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

つぎ かくてすゑのねとあるべきこゝろ
ねひんらら侍とうみく私きよ
いそがしくく来て申かくこゝ父
私ちうのみくるひゐや君をしらの
まゐんそこ良士をもうみせまう
いとさき氏あをとらさせのうとちら
せうれがようやもきこゝろ〳〵
くちふねうふうふうふ
あやのひそを
あゞそこゝろ
ぐんゆうすとねこ
こぎとうまこゝろ
うぎうねうふいうく
とものうまをうひうふ
うせんのひかうこん
ようあんぢうが首を
ゆうて父入くふ
又母ものとあり
くれゞ私きよ
大きふるぎき
コハあいそのき
ゆゝも君ハ源あ
の西流ことふ大き
ある山角之君をもする
はハうう矢作のだうをうくふ
ゆきよれ肉するこ

○頼朝
むねんのうけ
そもく〳〵
とう平泉の
くんせい四ついこ
どぐろき
あきのうこ
さきのりふ

大相
とうとう
あゝか
よをを
なをくふ
あきうう
ちくま
手ぬき
一男もの
りおねる
んでなもの
大将と

ゆへ

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

豊國画

市川團十郎作

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

市川團十良挾
五柳亭徳升作
歌川豊國画圖

下編二冊

あ姫ぶ冨士

戊子春新刊

岩戸屋板

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

つゞき　くまやら
ね日ハ二万門ふ
とゝさて人日を
ものびさんぐと
まきくろ皆五
ふまをとゝて
むらひの山をつゝ
ねゆふかのきのふと
おりくれがねとおもう
いなどなのもりげ
かりひいそくおひく
おうめうぐとといひ
くれがおろうく
ねかぐ足ひのゝ
ともりくまで
いぎろうのふと
ぢうまゝそうくく
スおう夕ハ目
あいのさゝのゑ
のりのむうれ
あう月い皆ま
父のくのをゑの
山ーさゝぐと
まきうほと
くれバ二万これ
をぎりくと

▲ちうさられ事治のらんふ父
よーふあちさ田ふうさまーが
おのうさおこる事次をとらく
くろがし天下を治うくう
これは私ようろくふまさ
まうこまひとゝまものくちらが
おきんろうようこのがふを
ゆうなべーゆのゝひ
くれがは私おちうのさむ
らひ一日ふさんかとゝ上ケ
くうおうくらうぐうなう
祝くひかくまろそよおう
くやのらく四ちのこと君
ふゝーまうふ中ひぎれま
せのちゆくの後おとゝのう
君をうらとちり。お二ゝ人
ありひとゆくれがはまうまり
あおさもらいよる国を九
今をおぶーをおぎうはし
つもうう君きこーめ
ゆ事をまくうう
何事をのりとのゝひ
くれが祝くひうけ
ゆのつてせん先
だうさらまう
作うう今
結ちぐ妹

九三

どうでうちふのる
あまをつ人がを
あのをんをこ
たぐいふいさめ
いきうらんそ
おたりとにぐ
さすぐるきうあ
くんそのくをし
ありうくいとけ
まきようおやの
おめをうえのる
あめつとすう
ひまうんおうくう
さくうゆうてつふ
くこなをあめ
ゆをとぜんてん
くるあ上ちきうの
天ふあまま五つ

○ふぢ赤神を
若我曽我五郎の仕ふゆくう
かてそ二万ハ十ヤ
皆ら其いねをおそとのりふるそのまうろれらが
ゆのくふおのいねちくぐいできたりれる
あ門うおうらちよ大名のつらをのるおろら
行せくろい作えのろせんなみよ

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用

207
827

文政十年戊子新板

神風倭國功 五冊 十遍舍一九作 歌川貞房画

千葉模様好新歌 六冊 東里山人作 松本幸良補助 歌川豊國画

扇富士曽我物語 六冊 市川團十良作 歌川豊國画

花紅葉吉野竜田 六冊 式亭虎之助作 歌川國直画

懐中鏡山開 六冊 蓬莱山人作 歌川國貞画

泰平武鑑 國分御大名付 諸御役人付 横本一冊

足利武鑑 足利御代御大名付 全一冊

岩戸屋喜三郎

歌川豊國画 市川團十良作

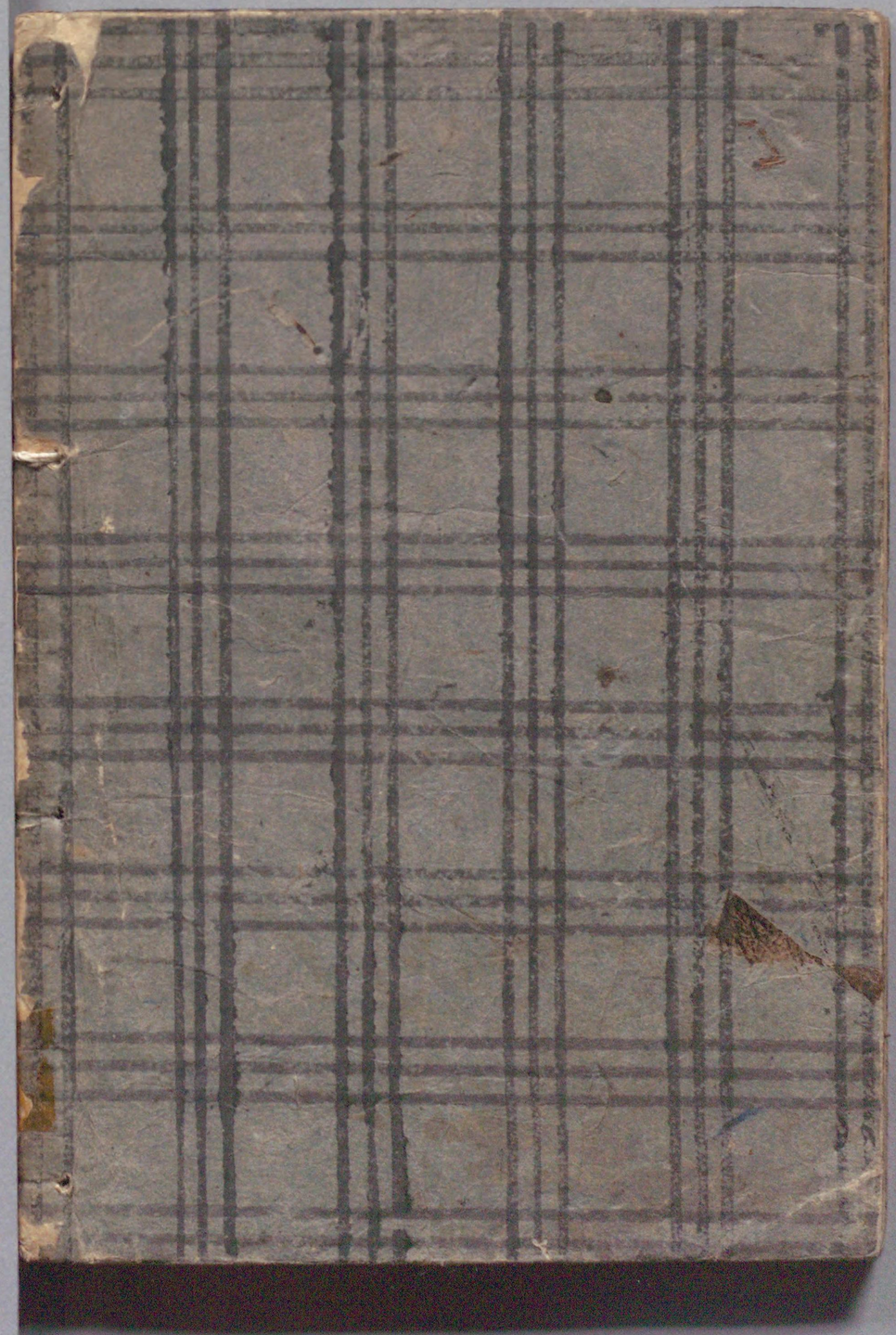
○京ぼし 南伝馬町いまり 新ゑ坂本氏製

美艶仙女香 一包代 四十八孔

運利香 下包代 二百三十二孔

国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用



国立国会図書館　扇冨士曽我物語 3編 207-827

ガラス使用